

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌

株主通信

2013年 秋号

本株主通信では、8月に発表しました新しい経営方針を中心に、2013年度第1四半期決算の内容とあわせてご報告いたします。

今回の経営方針では、前回の株主通信でお伝えしました通り「創造的成長」として、市場の伸長に過度に依存せず、東芝ならではの方法により自ら成長の原動力を創り出していく点が特徴です。実現にあたっては、従来の価値創造に加え、東芝の幅広い技術資産を新規領域で活用することによって相乗効果を発揮させ、新たな顧客価値を創出する「ニュー・コンセプト・イノベーション」を、組織を横断した新体制で推進していきます。また、資産の有効活用の観点からも、総資産回転率の改善や、CCC*効率向上など、全ての領域・業務において生産性を徹底的に向上させていきます。

注力事業分野については、従来からのエネルギー、ストレージに加えて、ヘルスケアを新たな柱と位置付けました。国内外で実績のある医療分野の事業領域を広げるとともに、予防・予後ビジネスを新規に展開し、M&A(企業買収)も含めた成長に向けた体制整備に注力していきます。

次に、7月に発表しました2013年度第1四半期決算については、NAND型フラッシュメモリが価格・物量ともに好調に推移し電子デバイス部門が大幅に増収、社会インフラ部門も海外原子力や太陽光発電な

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから多大なご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本株主通信は
2013年6月末時点での株主のみなさまに
お送りいたしますことをご了承ください。

どが順調で、売上高は1兆3,906億円でした。営業損益は、電子デバイス部門が大幅増益、社会インフラ部門は減益でしたが、計画を上回ったことにより、全社で前年同期比2倍超の243億円を達成しました。税引前損益・当期純損益もそれぞれ174億円、53億円と大幅に改善しました。

剰余金の配当(中間)につきましては、業績動向などを踏まえて決定してまいります。

「創造的成長の実現」を私が果たすべき最大の責務とし、当社グループ従業員20万人の先頭に立って施策を着実に実施してまいりますので、これからもご支援をお願い申し上げます。

2013年9月

代表執行役社長

田中久雄



* CCC: キャッシュコンバージョンサイクル(現金循環化日数)

※本株主通信では、「税引前四半期純損益」を「税引前損益」として「当社株主に帰属する四半期純損益」を「当期純損益」として表示しています。

2013年度から2015年度までの経営方針

経営方針の詳細は、東芝ホームページの投資家情報 ➡ IRイベント ➡ 経営方針・事業説明会でご覧いただけます(説明会動画も視聴できます)。

本株主通信では、経営方針について、新しい点や重点施策を抜粋してご案内します。

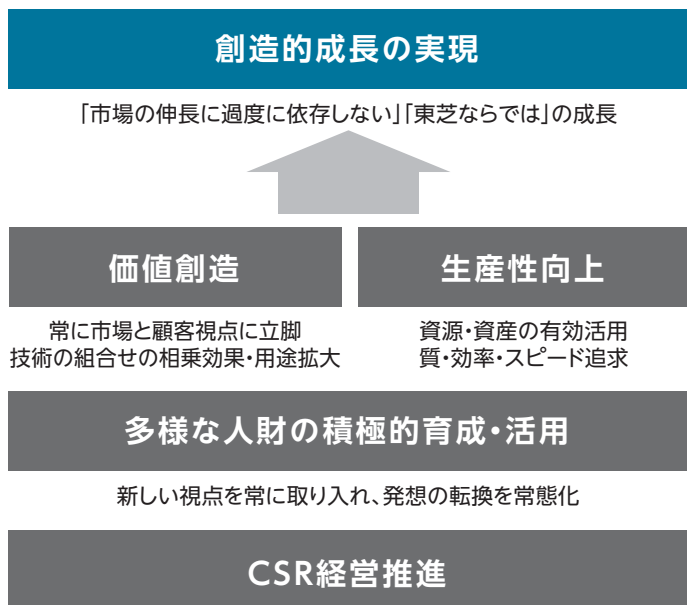
3つの柱である事業領域のうち、エネルギーでは、これまで各事業で培った技術を複合的に融合した、ビル／都市インフラ・ソリューションにも注力していきます。ストレージでは、これまで以上に高速・大容量・省電力・省スペースの全てを満たしたストレージシステムを提供していきます。新たな柱のヘルスケアでは、画像周辺領域と予防・予後ビジネスの事業拡大をめざします。

現在、課題となっているテレビ、パソコン事業については、事業環境にあった体制に構築し直し、新興経済市場の開拓、企業向け(BtoB)事業の強化や、蓄積した技術の他分野への応用による差異化を図っていきます。

体制面では、本年10月、約10年ぶりに事業グループを再編し注力分野を強化します。施策実施にあたっては、組織を横断して資産・資源を活用する東芝ならではの手法である「ニュー・コンセプト・イノベーション」を活用し、実行を加速していきます。



東芝グループ経営方針



東芝のめざす姿

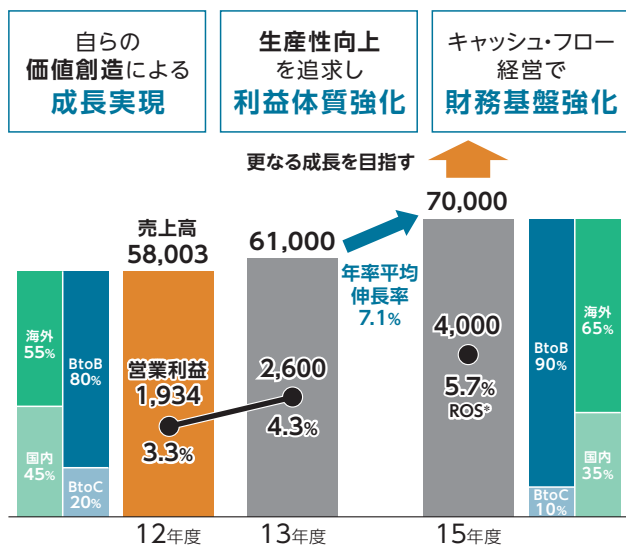
3つの柱を中心にスマートコミュニティを実現



*1 エネルギー・マネジメント・システム
*2 Information and Communication Technology

2015年度見通し

(単位:億円)

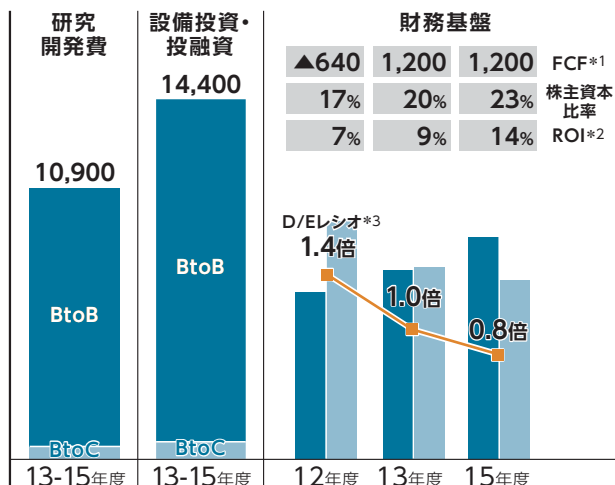


* 売上高営業利益率

資源投入と財務基盤

(単位:億円)

「創造的成長」に向けた資源投入と財務基盤強化の両立



*1 フリー・キャッシュ・フロー *2 営業利益 / (自己資本 + 有利子負債)
*3 有利子負債株主資本比率

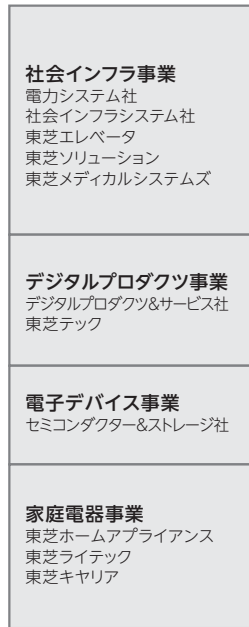
戦略と施策

施策を加速する事業体制

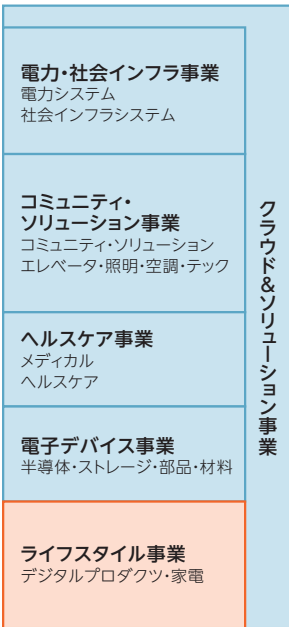
東芝の付加価値最大化へ向けて
10月に事業グループを再編

- 医療+ヘルスケア事業領域強化
- スマートコミュニティ事業化+ファシリティ事業強化
- 成長を支えるICT・クラウド基盤 横断体制強化

現行体制



新体制 (2013年10月1日付)



※新体制名称は予定

ニュー・コンセプト・イノベーション

「東芝ならではの」幅広い技術を広い領域に
活用し創造的成長を実現

新しい分野・産業への挑戦

視点を変えた
顧客の要求抽出



現有技術活用

- 想定顧客の拡大
- ビジネスモデルの転換
- 技術資産(保有特許5万件超)の領域を超えた活用

組織を横断した資産・資源活用のための新体制構築

新規事業開発 (マーケティング、商品企画、ビジネスモデル立案)

事業立上げ支援 (技術、営業、生産、経営戦略、デザイン、財務、人事)

ニュー・コンセプト・イノベーションの例

ヘルスケア 医用グラスレス3D

グラスレス3DTV
×
CTスキャナ

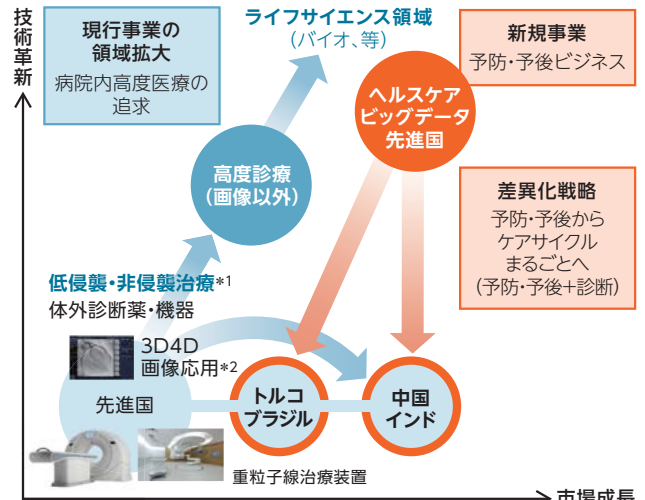


2013年度製品化予定

ヘルスケア 医療分野の事業領域拡大

国内画像診断市場でNo.1シェア継続、世界シェア4位

画像周辺医療領域と予防・予後ビジネスの拡大



*1 手術・検査などに伴う痛み、発熱・出血などを少なくする医療
*2 買収したバイタル・イメージズ社を活用

エネルギー ビル・ソリューション

豊富な設備機器・システムと制御技術で
省エネ・快適な環境提供

省エネ

モデルベース空調制御
省エネ率7%向上

画像センサ応用
照明制御
省エネ率11%向上

快適性

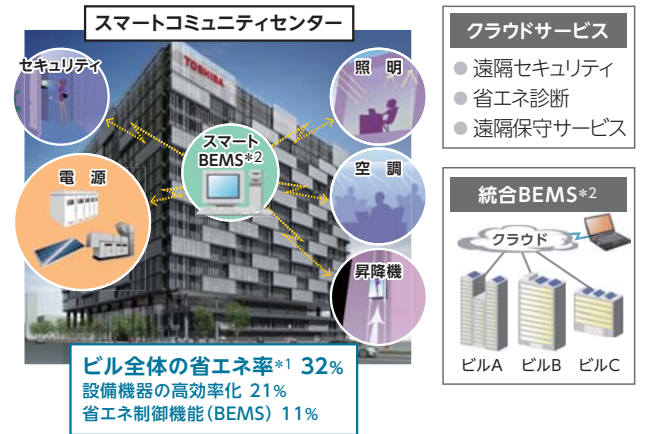
エレベータ
混雑階優先制御

最大長待ち時間
20%短縮

安心・安全

非常用発電で
3日間電力供給

エレベータ停電時
継続運転
最大2時間低速運転が可能



*1 省エネ法における基準年間消費一次エネルギー量に対する比較 (東芝試算)
*2 ビル・エネルギー・マネジメント・システム

エネルギー 都市インフラソリューション

最先端センシング技術で、安心で安全な町づくりに貢献

防災 ・ 自然災害予測 ・ 通信／放送を融合した避難指示、誘導
・ 交通制御による避難誘導
・ 医療機関、交通、情報連携による負傷救護

防犯 ・ 街中カメラ／画像処理による人物把握

2013年度第1四半期決算の概要

2013年度第1四半期(4-6月)連結業績 (単位:億円)

	2012年度	2013年度	前年同期比
売上高	12,689	13,906	+1,217
営業損益	115	243	+128
税引前損益	-147	174	+321
当期純損益	-121	53	+174
為替換算レート (円/ドル)	81	98	
(実績)	(円/ユーロ)	105	127

部門別営業損益 (単位:億円)

部門	営業利益
デジタルプロダクツ	-163
電子デバイス	479
社会インフラ	11
家庭電器	-60
その他	-16
部門間消去	-8
合計	243

本年5月8日に発表した2013年度の業績計画を変更していません。

トピックス

四日市工場での最先端微細化技術による量産と第5製造棟の第2期分の建設を開始

当社は、四日市工場(三重県)第5製造棟において、最先端微細化技術である19ナノメートル*第2世代プロセスを用いたNAND型フラッシュメモリ64ギガビット製品の量産を本年5月から開始しています。



四日市工場
第5製造棟の完成イメージ

NAND型フラッシュメモリは、中長期的にも市場拡大が見込まれることから、同メモリの次世代プロセス品や3D(三次元)構造品の生産スペースを確保するため、本年8月末から同工場第5製造棟第2期分の建設を開始しました。竣工は2014年夏の予定ですが、生産開始時期や生産能力などは、市場動向を踏まえ、今後決定していきます。

* 10億分の1メートル

放射線医学総合研究所・新治療研究棟の重粒子線がん治療*1用照射システムを受注

当社は、本年8月、重粒子線がん治療装置における超伝導磁石を搭載した回転ガントリー*2および治療室の室内機器の製作を受注しました。2015年3月納入予定です。重粒子線治療装置に超伝導磁石を採用したのは世界初で、重粒子線治療室に回転ガントリーを導入する国内初の事例となります。海外では、5月にアブダビ首長国向け、7月にマレーシア向け重粒子線がん治療施設の事業性調査に関する覚書を締結しました。

*1 重粒子線治療は、炭素イオンを光の速さの約70%まで加速してがん細胞に照射する放射線治療です。体の深いところにあるがんピンポイントで照射できるため、周りの正常な細胞を傷つけにくく、陽子線治療など他の放射線治療と比べてがん細胞を殺傷する能力が強いという特長があります。

*2 粒子線を輸送するための電磁石を搭載した回転構造体です。

ラオスで水力発電所向け水車発電機を受注

当社グループ会社の東芝水電設備(杭州)有限公司(中国・浙江省。以下、東芝水電)は、ラオス・ナムオウ第5水力発電所向け8万キロワット水車発電機3台を受注しました。2015年末に運転開始予定です。今回の受注は、東芝水電の納入実績、当社グループの高い技術力や機器の信頼性などが評価されたものです。



水の力により回転する
水車ランナ

当社は、本年4月に東南アジアにおける社会インフラ事業の加速のため、タイに東芝アジア・パシフィック・タイ社を設立し、タイ、ラオス、カンボジアでの営業活動を強化しています。今後も、同社を活用し、東南アジア地域での受注拡大に注力していきます。



回転ガントリー装置



治療室(イメージ)

株式会社 **東芝** 〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL (03) 3457-4511

株式事務についてのご案内

株主名簿 管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502

ご意見・資料請求は株式会社東芝 広報室あてにお送りください。

投資家情報サイト

<http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と異なることがありますことをご承知おきください。